

モジャモジャ 生えた



作 つばきとよたろう

いま ひか でんとう き
今、ピカッ ゴロゴロと光って、電灯が消えた。

へ や なか ま くら
部屋の中は真っ暗になった。

ゴロゴロ

ピカッ

ゴロゴロ

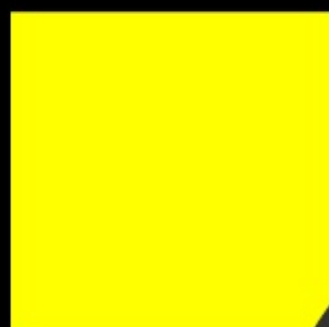
ゴロゴロ



でんとう へ や なか あか
電灯がついて、部屋の中が明るくなった。

ふ あま おと
降ってきたようだけど、雨音がしない。

か みょう おと き
代わりに妙な音が聞こえてきた。



モジャ

モジャ

モジャ



モジャ

モジャ

モジャ

モジャ

モジャ

モジャモジャ モジャモジャ なん おと 何の音だろう？



あたま なか

頭の中で、モジャモジャがおどりだした。

モジャ モジャ モジャ モジャ

モジャ

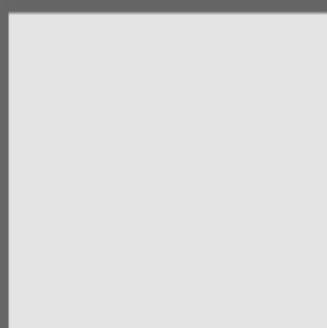
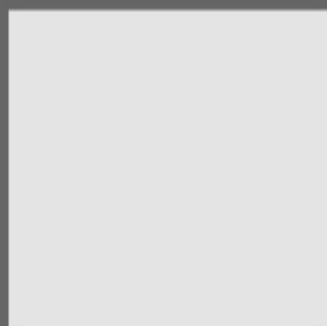
モジャ

モジャ

モジャ

あさ お
朝起きたら、外はすっかり晴れていた。
モジャモジャも消えていた。





モジャモジャの^{しょうたい}正体は、^{なん}何だったのだろうか？



がっこう む みち へん み みず
学校に向かう道で、変なものを見つけた。いつもは水たまりの
ところ どうぶつ け もの は
できる所に、動物の毛のような物がモジャモジャと生えていた。

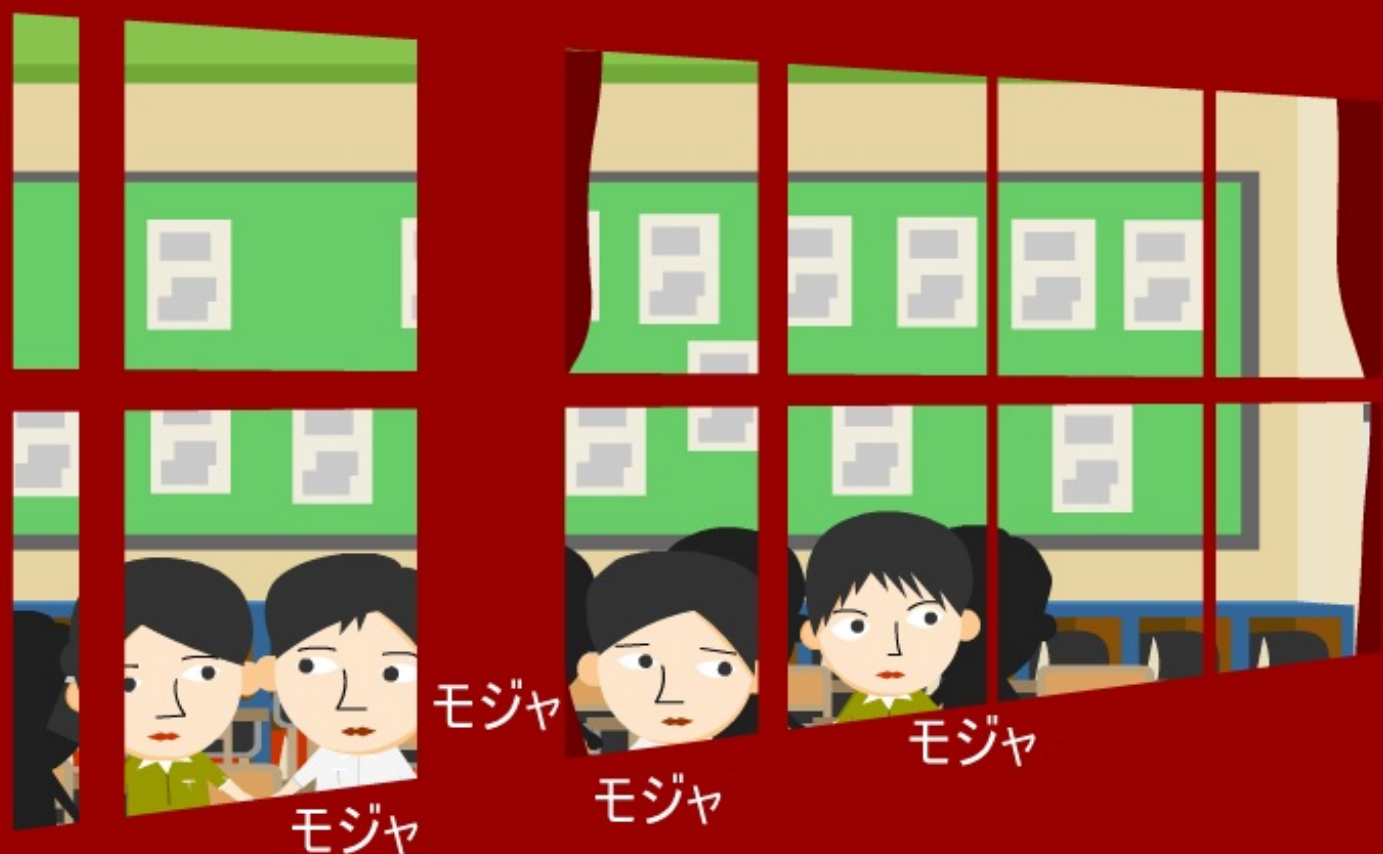
じめん は
地面から生えてきたのかな？

けもの あな ほ かく
獣が穴を掘って隠れているのかな？



わ^{こえ}っ^だと^{おどろ}声^{うご}を出^{うご}して^{うご}驚^{うご}か^{うご}し^{うご}て^{うご}も^{うご}、^{うご}モ^{うご}ジ^{うご}ヤ^{うご}モ^{うご}ジ^{うご}ヤ^{うご}は^{うご}動^{うご}か^{うご}な^{うご}か^{うご}つ^{うご}た^{うご}。
そ^{みず}こ^{すいめん}は^{きみよう}や^けっ^はぱ^はり^は水^はた^はま^はり^はで^は、^は水^は面^はか^はら^は奇^は妙^はな^は毛^はが^は生^はえ^はて^はい^はる^は
よ^{ほか}う^{きのう}だ^まつ^{ようす}た^{ちが}。他^{ちが}に^{ちが}も^{ちが}昨^{ちが}日^{ちが}と^{ちが}は^{ちが}、^{ちが}ど^{ちが}こ^{ちが}か^{ちが}町^{ちが}の^{ちが}様^{ちが}子^{ちが}が^{ちが}違^{ちが}っ^{ちが}て^{ちが}い^{ちが}る^{ちが}
き^{ちが}気^{ちが}が^{ちが}し^{ちが}た^{ちが}。





きょうしつ
教室は、モジャモジャのうわさで持ち切りだった。みんなは、
とうこう とちゅう め ふ し ぎ い あ
登校の途中で目にした不思議なものについて言い合った。



いっほん け は くるま み くるま も ぬし
一本毛の生えた車を見つけた。車の持ち主は、どうやっても
け ぬ こま
その毛が抜けないうって困っていた。
むす
リボンを結べば、かわくなるのにね。

モジャモジャの水^{みず}たまりに洗剤^{せんざい}を混^まぜたら、シャボン玉^{だま}が
タンポポのように綿毛^{わたげ}になって飛^とんでいった。



と 飛んでいけ！ と 飛んでいけ！

わた げ 綿毛のシャボン玉は、どこまでもどこまでも高く、^{たか} ^{あお} ^{そら}青い空へ

のぼっていった。

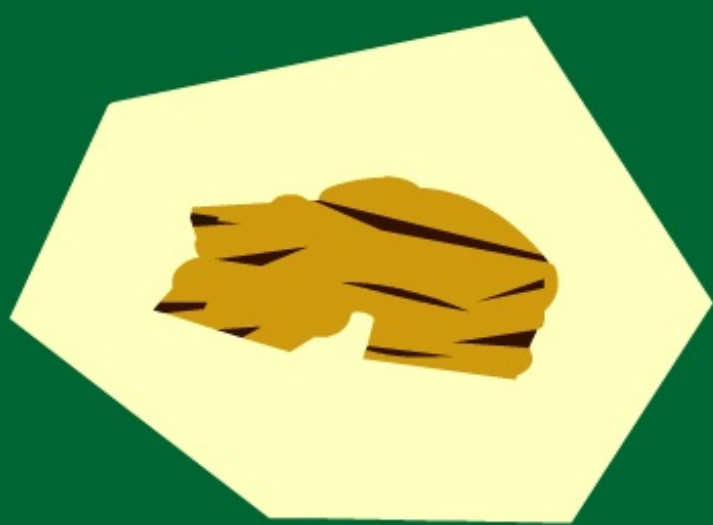




ひとばん そと ほ
一晩、くつを外に干したままにしていたら、
けがわ か
毛皮のくつに変わっていた。

たいそうぎ けがわ
ぼくは、体操着が毛皮のパンツになっちゃった。

きのう あめ げんいん
どうも昨日のモジャモジャの雨が原因らしい。

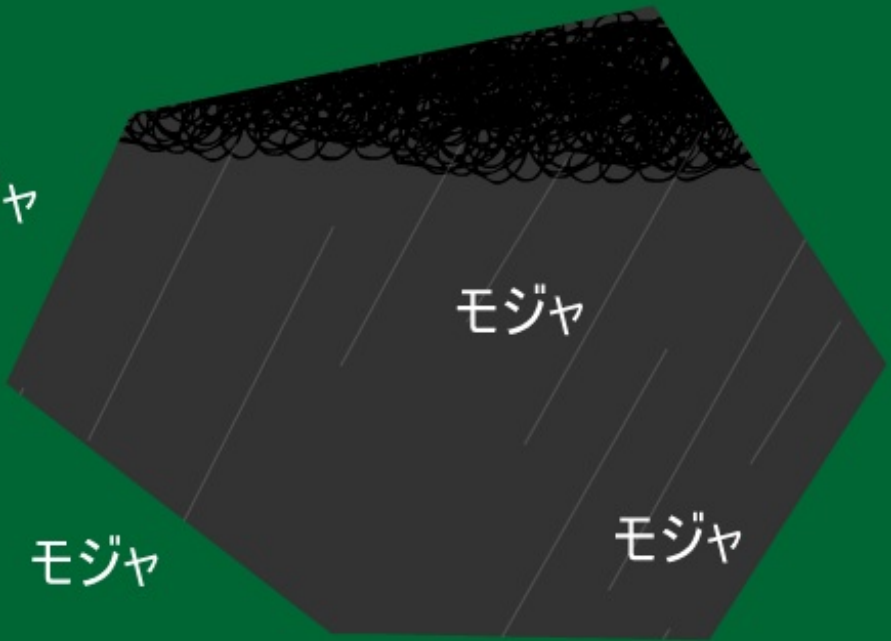


モジャ

モジャ

モジャ

モジャ







あらわ くるま
とつぜん現れたのは、ライオンのような車だった。

ふしぎ け
これもあの不思議な毛のせいなのかな？

まち ぜんぶ どうぶつ
町の車が、全部動物になったらいいのにね。

がっこう かえ みち たいへん
学校の帰り道は、大変なことになっていた。

あのモジャモジャの毛が、町をおおい尽くしていた。



たてももの
建物にはすっかり奇妙な毛が生えて、トラやシマウマの家、
たか
高いビルは麒麟にか
変わっていた。

まちじゅう おお どうぶつ
町中が大きな動物であふれていた。







まるで^{きよだい}巨大な^{どうぶつ}動物が、^{みお}見下ろしているようだった。

どこもかしこも毛だらけ。みんなの体にも毛が生えてきた。

オー、オー！ みんな裸になって叫んだ。

原始時代に戻ったように、野山をかけめぐった。





外でも綿毛わたげにつつ包まれているように暖あたたかかった。眠ねむくなった。

うとうとしていると、どこからともなく穏おだやかな風かぜが吹ふいてきて

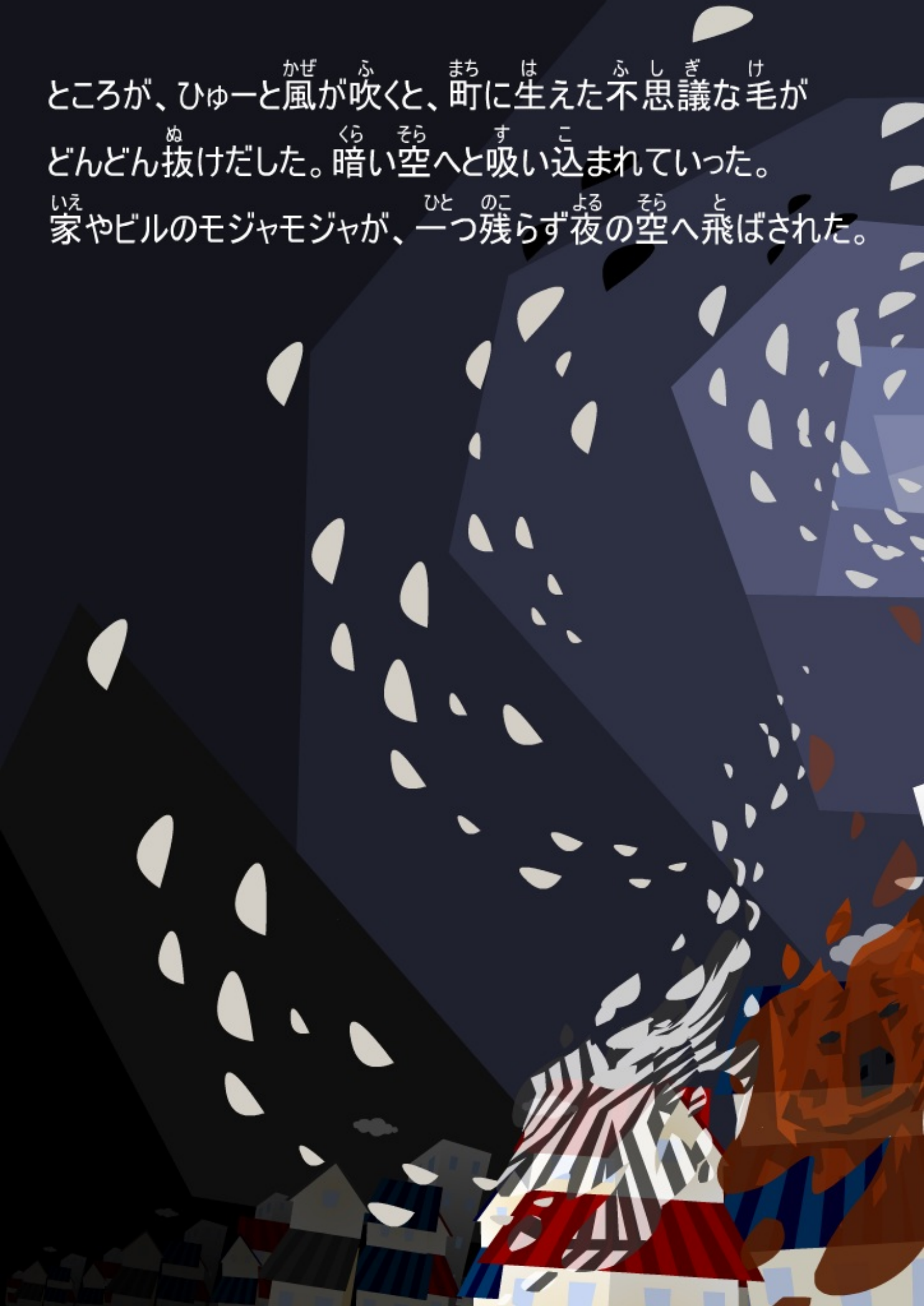
毛玉けだまを飛ばした。





ところが、ひゅーと風が吹くと、町に生えた不思議な毛が
どんどん^ぬ抜けだした。暗い空^{くら}へと吸い込まれていった。

家^{いえ}やビル^{ビル}のモジャモジャが、一つ残らず^{ひとのこ}夜の空^{よる}へ飛ばされた。





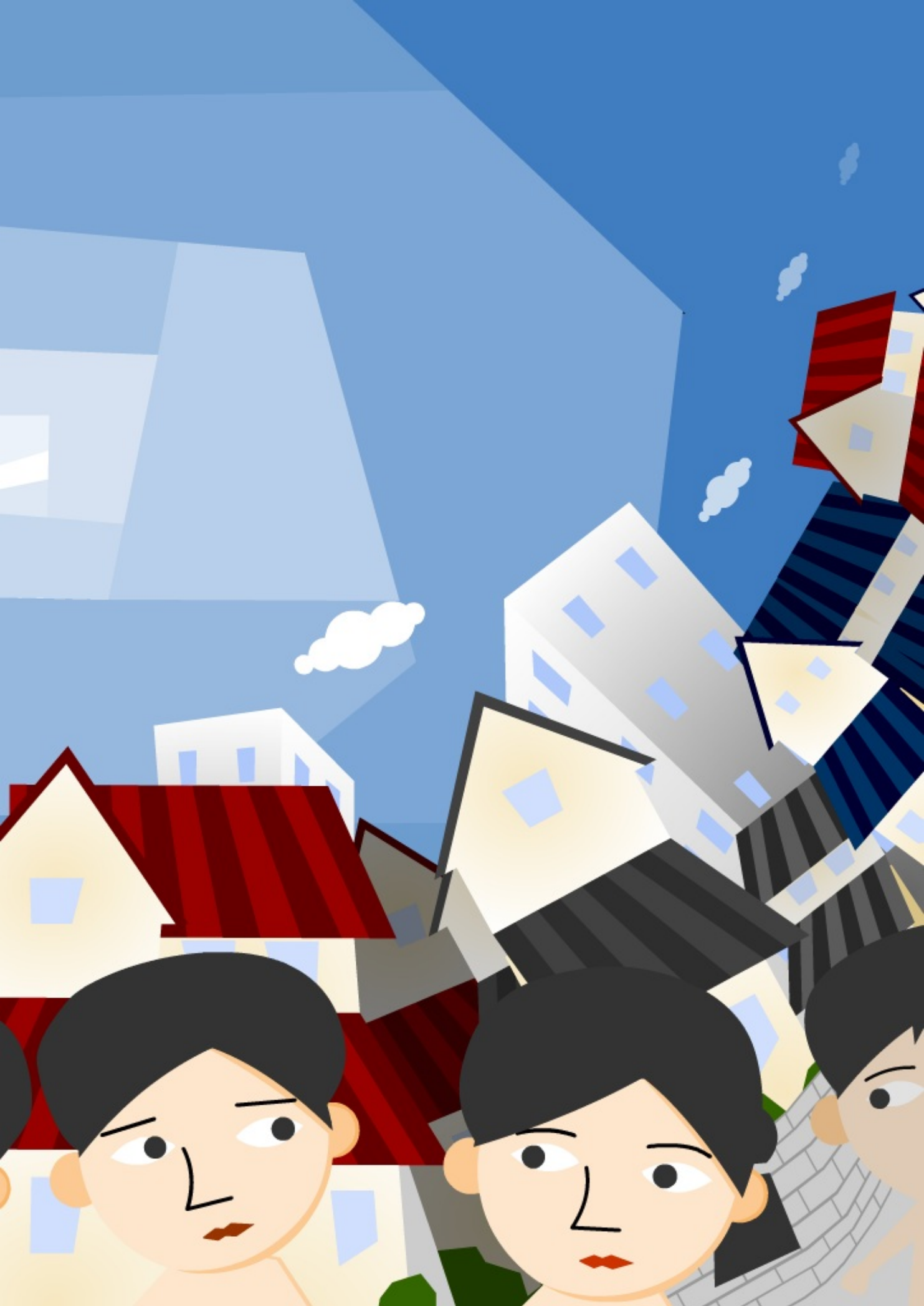
よくあさ け すべ き まち もとどお
翌朝、なぞの毛は全て消えて、町は元通りになっていた。

たても の ひ ひかり て かがや み
建物が日の光に照らされて輝いているように見えた。

からだ け な はだか
体の毛が無くなって、みんな裸だった。

みんなでおおわら
みんなで大笑いした。









おわり